



ウェブでの

情報マルチアクセス人間に移行しよう!

情報収集能力強化合宿!



text : 柳井政和 illust : はぎわらけい

情報を“探す”“比べる”
“整理する”能力のUPが
本合宿の最終目標なり

新聞を“読む”、雑誌を“読む”、ラジオを“聞く”、テレビを“見る”。インターネットが登場する以前のメディアでは、日々の情報収集は受動的なもので、情報に対して目の前のメディアが提供するものを受け入れるか否かを選択しさえすればよかった。ところがインターネットの普及、特に常時接続環境が整ってからというもの、私たちはさまざまな情報に、簡単にアクセスできるようになった。検索ページでの検索、さまざまなニュースサイトからのニュースの拾い読み。有用なデータ

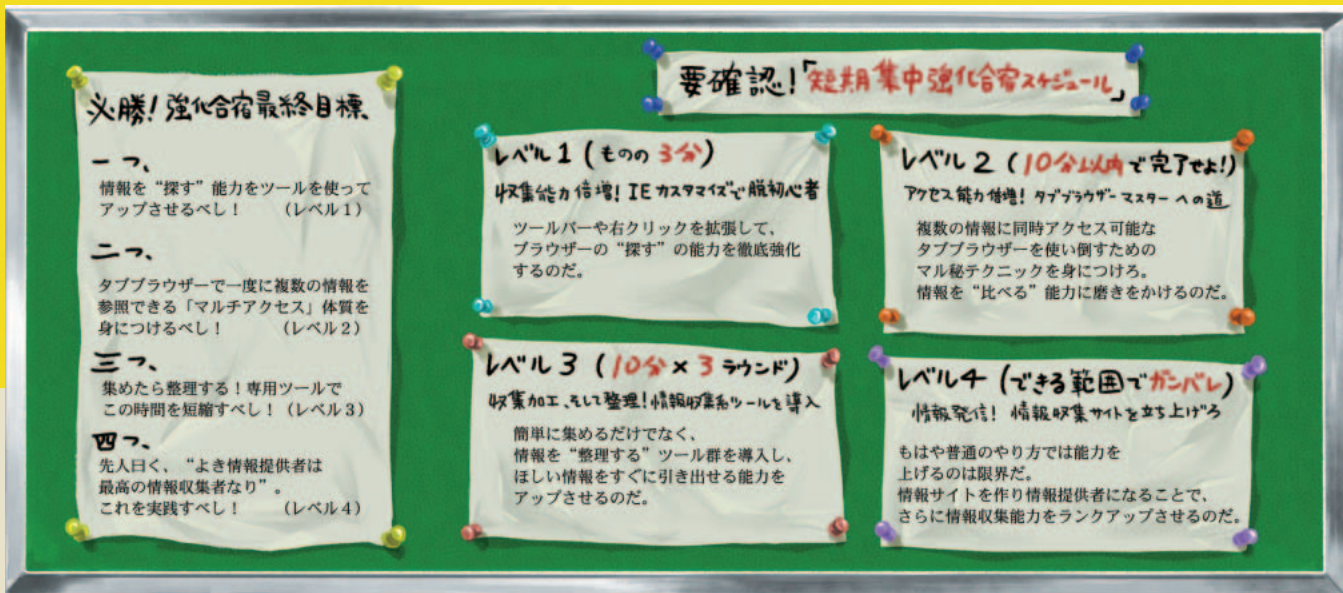
ベースからの情報入手。短時間で膨大な情報を獲得できる環境が、今私たちの目の前にある。

そうすると人々の情報に対する行動は変わる。情報収集には、これまでの“選択”の能力以上に“探す”“比べる”、そして“整理する”という能力が重要さを増しているのだ。

だが、こうした積極的な情報収集ができる環境の中には大きな落とし穴がある。得られる情報の量が飛躍的に多くなり、さらに“探す”“比べる”“整理する”の能力が必要となったとき、人々の情報収集能力に大きな差が生じてきたのだ。特に「時間」についての差が大きい。1時間で100の情報を処理できる人もいれば、10

の情報しか処理できない人もいる。

なぜこんな差が生じるのだろうか。それは情報を扱うためのテクニックを知らないからだ。テクニックを身につけさえすれば、誰でもインターネット上の膨大な情報の中で、複数の必要な情報に短時間で手軽にアクセスして扱える「情報マルチアクセス人間」になれる。ここでは情報マルチアクセス人間になるためのテクニックを短期集中型強化合宿にて伝授する! まずは今使っている“情報窓口”インターネットエクスプローラをカスタマイズするところからはじめて、最終的には情報収集サイト運営者になるまでパワーを上げていこう。合宿の開催スケジュールは右の掲示板のとおりなので、目を通しておくように。



収集能力倍増!

インターネットエクスプローラ(IE) カスタマイズで脱初心者



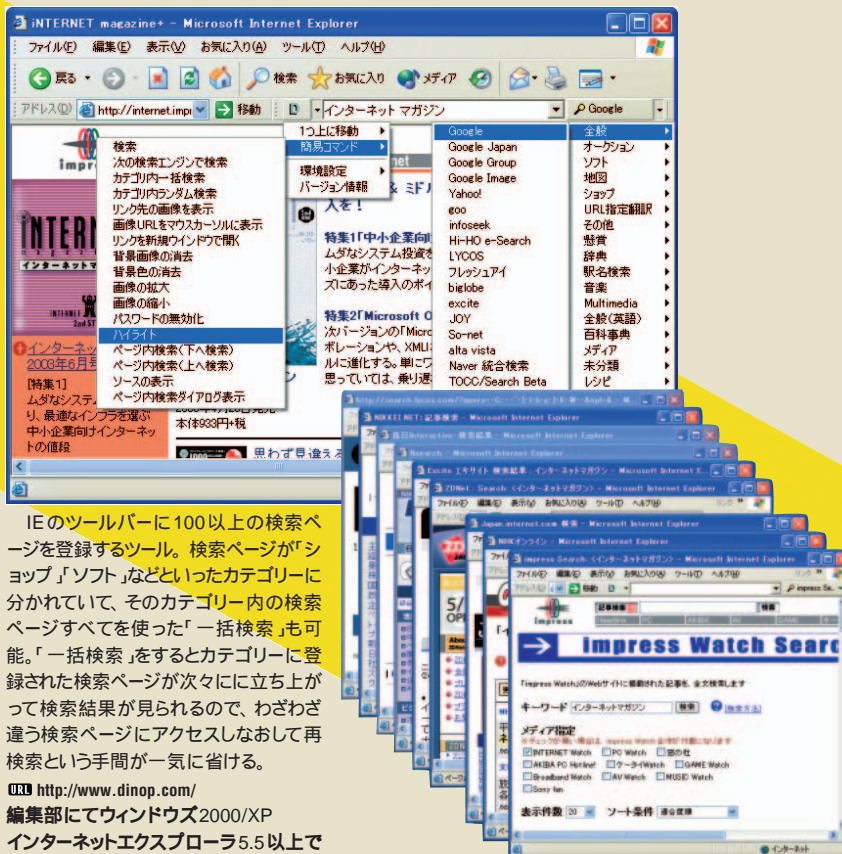
レベル1

IEカスタマイズで検索にかける時間が半分以下になる

普段利用している情報窓インターネットエクスプローラ(IE)に、ツールを少し追加するだけで強力な情報収集ツールに早変わりする。ここで紹介するツールをインストールすれば、ツールバーから検索ページにアクセスしたり、ワンクリックでページの文字列を検索したりする機能や、自分のほしい情報が載っているサイトの更新状況を一瞬にして確認する機能がIEに備わり、今までわざわざGoogleやレストラン検索ページなどにアクセスしていた時間が一気に省略されるのだ。

ここで紹介するツールはすべてフリーソフトだ。ダウンロードして、インストールすればそのまますぐに使えるものばかり。また、ここで紹介する機能以外の便利な機能もあるので、作者のホームページを覗いてみてほしいだろう。情報収集のツールを使いIEを使った“探す”能力をグンと伸ばしてみよう!

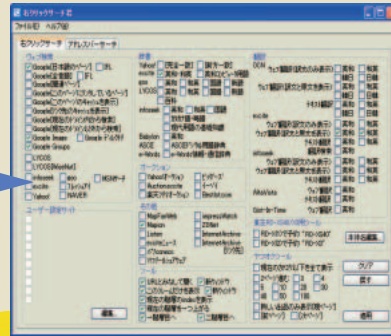
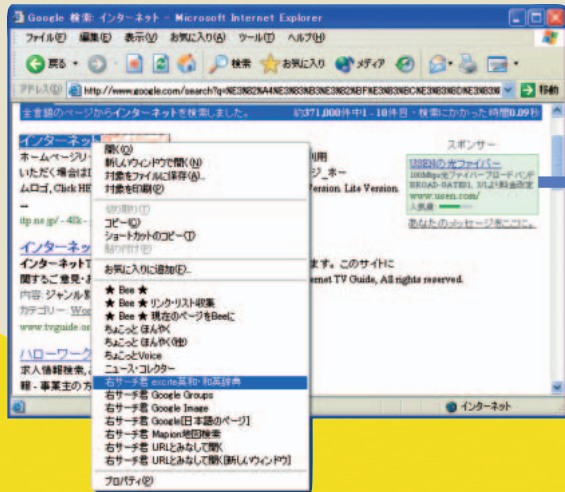
複数の検索ページで一気に検索できる「DinopSearchBar」



IEのツールバーに100以上の検索ページを登録するツール。検索ページが「ショップ」「ソフト」などといったカテゴリーに分かれていて、そのカテゴリー内の検索ページすべてを使った「一括検索」も可能。「一括検索」をするとカテゴリーに登録された検索ページが次々に立ち上って検索結果が見られるので、わざわざ違う検索ページにアクセスしなおして再検索という手間が一気に省ける。

URL <http://www.dinop.com/>
 編集部にてウィンドウズ2000/XP
 インターネットエクスプローラ5.5以上で動作確認

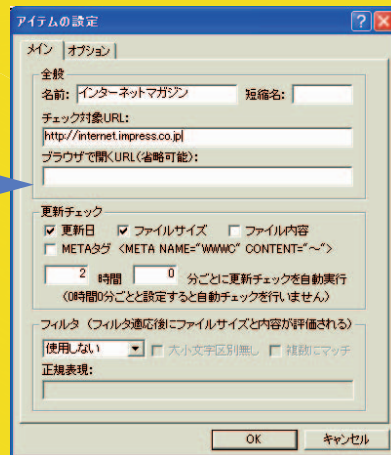
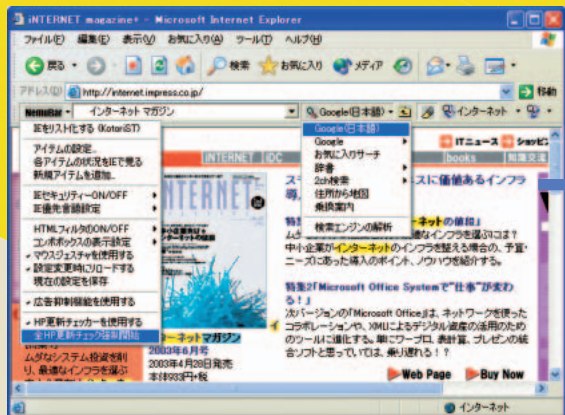
右クリックからその場で検索可能!「右クリックサーチ君」



範囲選択した言葉を右クリックのメニューから検索できるようにするツール。たとえば、IE上でわからない単語が出てきたら、範囲指定して右クリックで検索という使い方ができる。検索できるページも、左の写真的ようにGoogleだけでなく、辞書、ニュース、用語辞典など多種多様。先に設定をしておけば「わからない単語が出てきたから、用語検索サイトに飛んで……」といったような時間は必要なくなるのだ。

URL <http://www3.plala.or.jp/aur/migi.htm>
 ウィンドウズ95/98/2000/XP
 インターネットエクスプローラ5.0以上

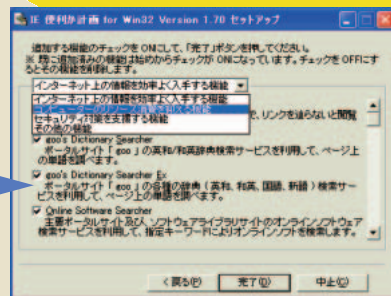
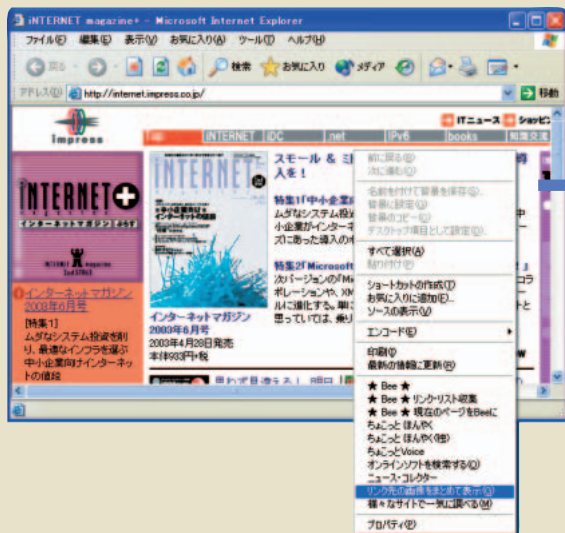
強力! 更新チェック機能で新しい情報を逃さない「NemuBar」



ホームページのURLやタイトル、更新時間を設定して登録しておけば、ホームページの更新をバックグラウンドでチェックして、更新があれば「NemuBar」の文字を青色反転して知らせてくれるIEツールバー向けのプラグイン。わざわざ更新チェックソフトを立ち上げなくても、IE上から登録したホームページの更新一括チェックができる。そのほか検索機能や、ハイライト表示機能なども強力。

URL <http://www.aa.alpha-net.ne.jp/bosuke/>
 ウィンドウズ98/Me/2000/XP
 インターネットエクスプローラ5.5以上

便利にしながら、セキュリティ強化もできる「IE便利か計画」



リンク先の画像の一覧表示や、選択した範囲の言葉を右クリックすると、gooの国語辞典検索、ソフトウェア検索などの検索ページへの文字列送付もできる。そのほかセキュリティ強化やメモリのリソース調整など、かゆいところに手が届くIEカスタマイズツール。

URL http://www.hf.rim.or.jp/~iam387/script/IE_Benrika/
 ウィンドウズ98/NT4.0/2000/Me/XP
 インターネットエクスプローラ4.0以上



レベル2

“比べる”能力倍増! タブブラウザマスターへの道

複数サイトを比べて
目的の情報をゲット

上記のツールを使った情報収集にある程度慣れてきたならば、日々見て回るサイトがいくつか決まってくる。これらは特に大事な情報源となるサイトだ。この情報源をいくつか立ち上げて内容を“比べ”ながら情報収集から整理までこなしたいところだが、IEでこれら複数のサイトを立ち上げて見“比べ”ようとすると、タスクバーにボタンがたまり、またウィンドウの位置もバラバラになって非常に見づらくなる。

しかし「OPERA」「Netscape 7.0」「Sleipnir」「Donut」などのタブブラウザなら、“タブ”としてページが整理され、複数サイトを開いてもウィンドウがバラバラにならず、“タブ”から自分の見たいページを即座に見つけることができるのだ。これは、大量の情報を“比べ”ながら収集するのに非常に効果的だ。

もちろんこのタブ機能は、ただページを探しやすくするだけではない。ここでは、タブブラウザを使った、情報を探す時間を短縮するテクニックを伝授する。

複数サイトを見“比べる”目的に最適なタブブラウザ



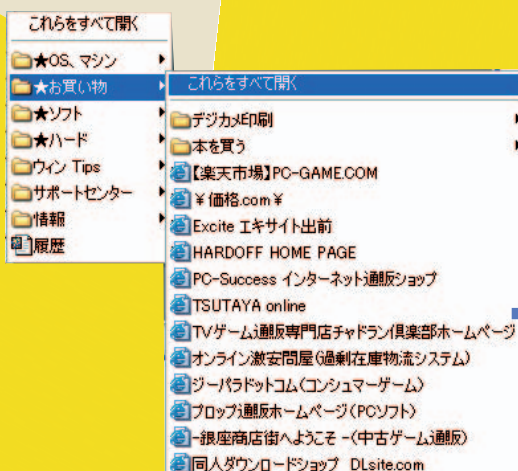
IEで複数サイトを立ち上げると、ウィンドウがバラバラになり、目的のサイトを探すのが大変。最小化してタスクバーに格納しても位置がバラバラで、探しにくい。

タブブラウザなら、複数サイトを立ち上げても1つの画面で管理できる。比べたいサイトを探す時間が短縮できる。



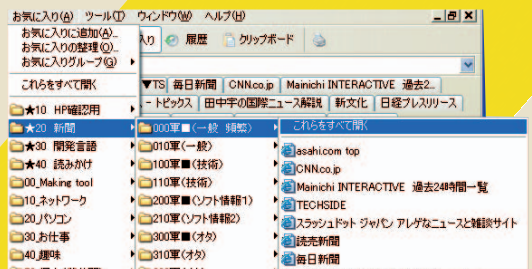
タブブラウザ活用テクニック伝授!(Donut Pを使用)

お気に入りをもとめて開く



フォルダー内のお気に入りをすべて開く機能を使えば、いちいちお気に入りを1つずつクリックする必要はない。1つのフォルダーに「ニュース」など同ジャンルのサイトを入れておけば、それらを一気にオープンして、見比べながら最適な情報にたどり着ける。

でも、お気に入りの整理は必要!



「お気に入り」のフォルダーを一気に開けるからこそ、お気に入りの整理は重要。1つのフォルダに100を超えるサイトを入れておくと、一気に100以上のサイトが開き、目的のサイトを見つけにくくなるうえ、処理能力の低いパソコンだとたくさんのサイトが開いてそのままフリーズというハメにもなってしま!

タブブラウザ活用テクニック伝授! Part2

ダブル検索でほしい情報を効率的に検索 (Donut Pを使用)

タブブラウザの「比べる」能力は、検索ページを使う際にも役に立つ。たとえば「ウェブサービス」についての情報を知りたいとき、「ウェブサービス」と「XMLウェブサービス」という似たような言葉で検索をして、その検索結果を見比べながら、本当に必要なページを見つけるという使い方が可能だ。IEで、一度「ウェブサービス」で検索して、いい結果が得られなかったので「XMLウェブサービス」で検索。そうすると、「ウェブサービス」で検索したときのほうがいい結果だと判別し、前のページに戻る……。そんな、検索流浪はしなくてもよくなるのだ。

① 検索エンジンで2つのキーワード検索をして「検索結果」を開く。



② 「左右に並べる」オプションを使えば2つの検索結果を並べて見比べるという使い方も可能。



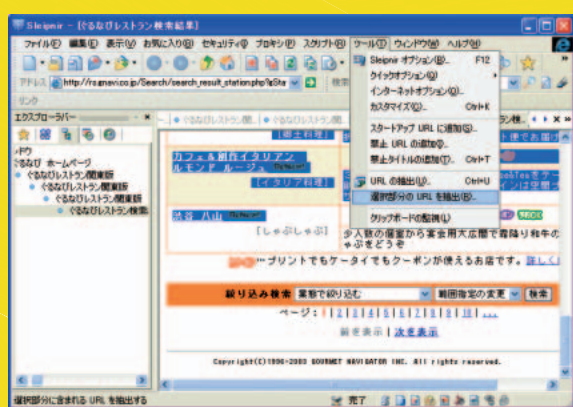
③ 目的のページを見ながら、さらに検索を重ねるといった使い方も便利だ。



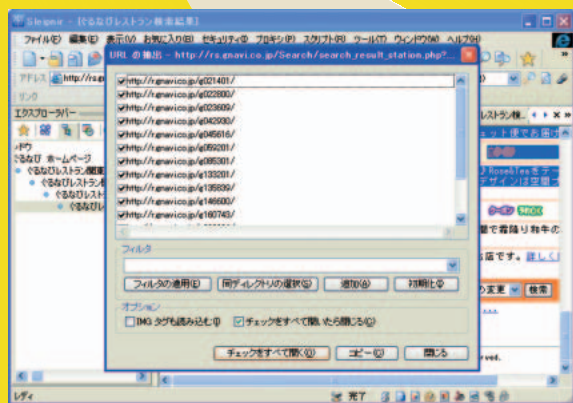
Sleipnirを使った検索結果比較テク

人気のタブブラウザ「Sleipnir」には「リンクを抽出」という機能がある。これは検索結果を一気に開いて、タブで見比べながら情報を確認していくという使い方に適している。使い方は簡単。たとえば「高円寺」の周辺のレストラン情報を探そう。レストラン検索ページで「高円寺」と入力、何件かの検索結果が出るはずだ。そこで、「リンク抽出」をすると、一気に検索結果に表示されたページが開くのだ。検索結果のページで「リンクを最初からクリックしていく」というわずらわしさはなくなるのだ。

① 検索結果ページで複数の見たいリンク先を含む範囲を選択し、「ツール」「選択部分のURLを抽出」を選ぶ。画面はぐるナビのレストラン検索。



② 選択範囲のリンク先URLの一覧が表示されるので「チェックをすべて開く」を選択。すると、すべてのリンク先のページがタブで整理されて開く。



③ 後はタブを切り替えながら情報を探すといい。このとき左のエクスペローラーを開いておくとう便利だ。





レベル3

情報管理力アップ! 専用ツール導入で「整理する」力をつける

思いついたら即スクラップで
データ整理完了

ウェブスクラップツールを使いこなす

「紙 2001」で情報をスクラップ

ウェブブラウザによる情報収集に慣れてきたならば、今度はその情報を活用する段階に移行しよう。

情報の活用の下準備として必要なのは、インターネット上の情報を保存して「整理する」能力だ。もちろん、インターネット上の情報の多くは、そのまま保存しただけでは整理されていない情報だ。都合のよい情報がそのまま使える形でインターネット上にあるとは限らない。そこで「整理する」能力が必要になる。たとえばあるサイトを重要な情報として「お気に入り」に登録するという整理法を使っている人も多いだろう。ただし、後でそれが何のためだったのかわからなくなるという経験をしたことはないだろうか。そうすると、もはや情報は「ただのデータ」にしかならないのだ。

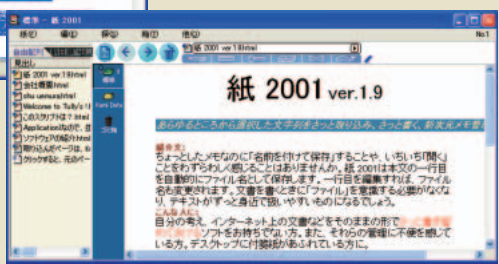
このように、収集した情報が「ただのデータ」になってしまうという状況を改善してくれるのが、「紙 2001」や「KuroPan」といったツールだ。これらは新聞をスクラップするように、ウェブページの一部を切り抜き、HTML形式で保存するという機能を持っている。これらのツールでスクラップしたデータはスクラップ元のページとリンクしているので、テキスト形式でいちいちコピーして整理する方法などよりは、はるかに整理の時間は短縮される。

キモは、重要だと思った「文章」や「キーワード」を範囲指定して保存しておけば、その「文章」「キーワード」を自動的にタイトルとして保存できるところだ。この保存の仕方は、自分の知りたい情報が直接ファイルのタイトルになっているので、後でキーワードをもとに集めた情報から必要なものを探そうとしたときに非常に効果的なのだ。これらを使ってまずは情報整理能力レベルアップに励んでみよう。



①「紙 2001」をインストールして、Shift + Ctrl + Gを押せば指定した範囲の情報が自動的に取り込まれる。範囲を指定していなければ、ページすべてが保存されるぞ。

②「紙 2001」のメイン画面に、ウェブページで選択した範囲の内容がHTML形式のまま、リンク先、保存時間とともにリスト状に整理された形で保存される。



右クリックで保存する「KuroPan」



①「KuroPan」は、範囲を指定して右クリック。メニューから「KuroPan」を選んで取り込む。こちらも範囲指定をしなければページ全体を取り込むことになる。

②「紙 2001」と同じように、リスト形式で保存が可能。そのほか保存したページのリンクやメールアドレスを抽出して、リストにできる機能もある。



「紙2001」での情報収集は簡単だ。インストールした後、取り込みたい範囲をマウスで選択し、Shift + Ctrl + Gを押せばその範囲が自動的に取り込まれる。ポインタはファイル名をつけて保存したりする必要が一切ないこと。取り込んだファイルは、自動的にリンクとタイトルをつけて保存されるので、その時点ですでに時間軸とタイトルになったキーワードにそった情報の整理ができていくといってもいい。「KuroPan」も似たようなコンセプトのツールだ。どちらを使うかは利用者のお好みだろう。

- 「紙 2001」
URL <http://www.ki.rim.or.jp/~kami/>
Windows 95/98/Me/NT4.0/2000/XP 対応。
フリーソフト
- 「KuroPan」
URL <http://www.ylw.mmtr.or.jp/~seisei/kumaweb.htm>
Windows 95/98/Me/2000/XP 対応。
フリーソフト

「ニュース・コレクター」で「整理」能力をさらに磨く

ちょっとしたメモ程度にウェブの情報を保存、整理しておくのならば先の「紙2001」などでも十分なのだが、たとえば今後どういふ風にその情報を使うかといったビジョンを持った情報の整理方法を目指すとなると、URLとタイトルだけでなく、自分なりの評価など、後で活用するための情報を最小限の労力で記録しておく必要がある。こういった用途に使えるのが、「ニュース・コレクター」だ。

「ニュース・コレクター」の使いかたも基本的には、「紙2001」などと同じで、ページの重要だと思う部分を範囲選択し、それをタイトルとして保存するという方法だ。ただし、この情報を将来どのように使うかなどのコメントを入力できる点と保存した情報はタイトルとコメントを「ログ表示」機能によって、ウェブページで一覧表示できる点が先のツールとは違っている。

しかし、もっとも大きな特徴は、収集したデータを検索して好きな形式で出力する「過去ログ検索機能」がある点だ。これを使えば、探したいキーワードにヒットした収集データがすべてリストアップされる。さらに、このリストは出力形式がCSV、XMLなど好きなものにカスタマイズできる。たとえばCSV形式で出力して、これまでのニュースをエクセルで資料として提出するという活用の方法もあるだろう。

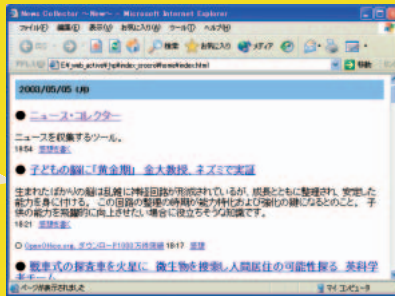


ニュース・コレクターはこのように使い！

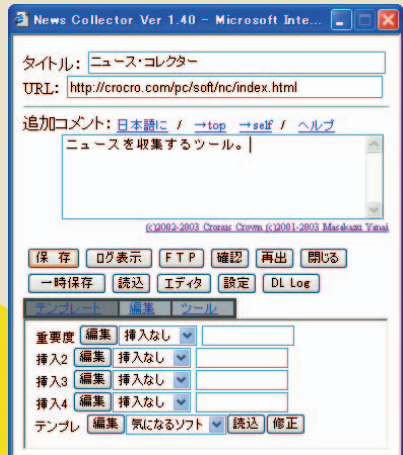
ニュース・コレクターで情報を整理する



① まずは保存したいページの上で右クリック。「ニュース・コレクター」を選ぶ。



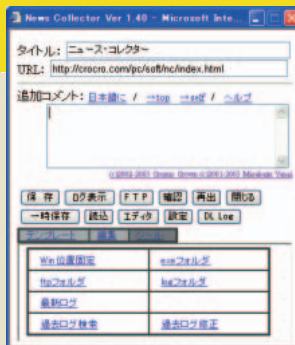
③ 「保存」を押した後、前の画面の「ログ表示」を押すと、これまで記録したページのタイトル(このタイトルはページへリンクされている)コメントなどが新しい順に一覧表示される。



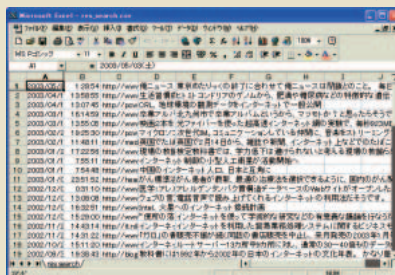
② タイトルとURLの入ったメイン画面が起動するので、ページの文章の一部を選択していた場合は、その文字列をタイトルとして取り込むことも可能。コメントなどを入れて「保存」をクリック。

「ニュース・コレクター」
URL <http://crocro.com/pc/soft/nc/>
IE5.0以上が必須
フリーソフト

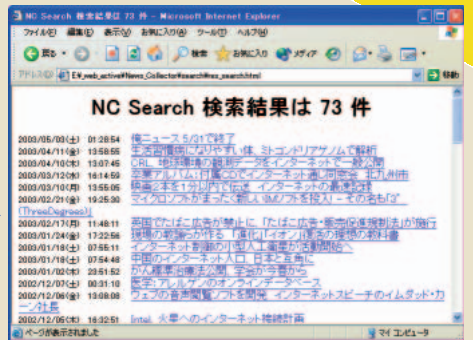
「過去ログ検索」で集めた情報をCSVファイルで出力する



① 「ニュース・コレクター」の起動画面で「ツール」から、過去ログ検索を選択する。



③ 「NC Search」のトップ画面で、「テンプレート」の項目を変えれば、さまざまな形式でログ出力が可能。写真はCSV形式にテンプレートを変えた検索結果。



② 「NC Search」が立ち上がるので、検索ワードを入れて検索開始。キーワードにあてはまる、これまでの情報が一覧される。

なくなりそうな情報は サイトを丸ごと保存せよ

インターネット上の情報は、永遠に入手可能な情報ではない。ページが移動したり削除されたりすることもあるし、サイト自体が閉鎖されることもある。

これまで紹介したツールはいずれも元情報の一部を保存したり、リンクをつけたりするだけのものだ。そのため、絶対に逃せない情報を見つけたときは、最終手段としてサイトすべてをローカルに保存しておく必要があるだろう。そんなとき、わざわざ1ページずつサイトのHTMLを保存するのは面倒だ。サイトのトップページを指定して一気にすべてのページを保存しておくのがおすすめの方法だ。リンク集なども、リンクページを指定して、リンク先のサイトをすべて保存すると「わざわざリンク先に飛んでまた保存」といった手間が省ける。

ここでは「Download & Search Bee」を利用して、ファイルを一括保存する方法を紹介する。

ほかにも細かな設定はできるが、以上をやっておけばサイトを丸ごと保存しておくという目的は十分達成できるぞ。

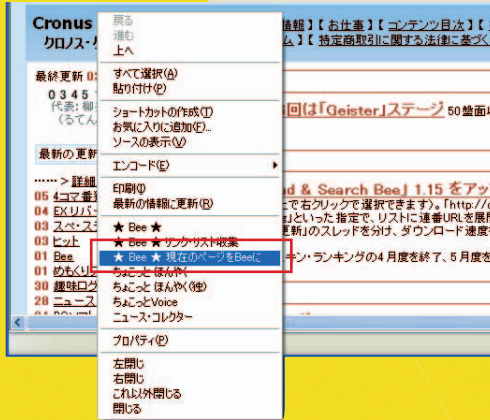
「Download & Search Bee」
<http://crocro.com/pc/soft/bee>

シェアウェア 2,900円

一度にダウンロードできるファイルの数が500ファイルまでのフリーウェアもある。



「Download & Search Bee」で丸ごと保存



① インストールしたら保存したいサイト上で右クリックする。「現在のページをBeeに」という項目が出るので、これを選択する。

② メインウィンドウが立ち上がるので初心者用でも設定が簡単に行える「ガイド」を選択する。中央にダウンロードする対象ページが一覧されるので、もし数が多ければここで「対象」のチェックをはずし、制限すればいい。



③ ガイドウィンドウでダウンロード(サイト丸ごと)を選択しよう。そのほかリンク先も丸ごと、ディレクトリ丸ごとといったオプションもある。

④ メイン画面で「DL」を押せば、リンク先も含めて、そのサイトをすべてダウンロードし始める! この情報はあくまで個人使用の範囲で!





レベル4

究極!

自分専用情報収集サイトを作る

情報ネットワークを作り
最高の情報マンになれ

情報収集のノウハウがたまってきたならば、収集した情報を自分のサイトを作って提供することも考えてみよう。

情報は、“集める”だけでは1人で探した分だけの情報しか集められない。だが、情報を編集して他人に提供すれば、その他人からさらなる情報を呼び込むことができるのがインターネットの本来の力だ。したがって、情報提供をするときは、どうやって他人の情報を引き出すかを考えておくといいだろう。

もし、特定の分野の情報を徹底的に集めたいと思うならば、その分野でもかなりの情報通であることを示せばよい。可能な限りの情報を集め、その情報を他人にとって意味のある形で提供するのだ。そうすれば、その分野の人々があなたのことを無視できなくなる。結果、情報を“共有”するために、あなたに接触を試みてくるだろう。

インターネット上の情報は、二次情報であることが多い。直接その分野にかかわっている人と交流を持つことにより、一次情報にアクセスできる環境を構築するのが情報収集サイトを立ち上げる最終的な目標になる。

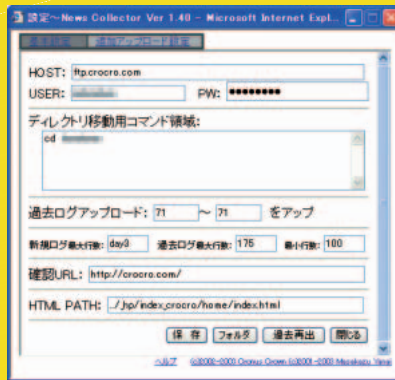
自分にアクセスしてくる人の情報を
得ることもまた情報収集なり

また、自分専用の情報収集サイトを作って公開すれば、同じような情報に興味を持っている人たちの動向や興味の変遷もリサーチすることが可能だ。その中でも有効なのは「アクセス解析」だ。「アクセス解析」などを行うには、自分でもそれなりにスクリプトが書けるといった能力が必要になるが、ほかのサイトが自分のサイトにリ

ニュース・コレクター + 自分サイトで簡単ニュースサイト制作

実は、先に紹介した「ニュース・コレクター」は、簡単に個人ニュースサイトを構築する機能がある。収集した情報を一覧する「ウェブページ」をそのまま、FTPで自分のサイトにアップロードすればいいのだ。「ニュース・コレクター」のメイン画面で「設定」ボタンをクリックして、設定ウィンドウ内の項目に必要な事項を入力すれば設定は完了。入力する内容はFTPの基本的な設定が中心になる。

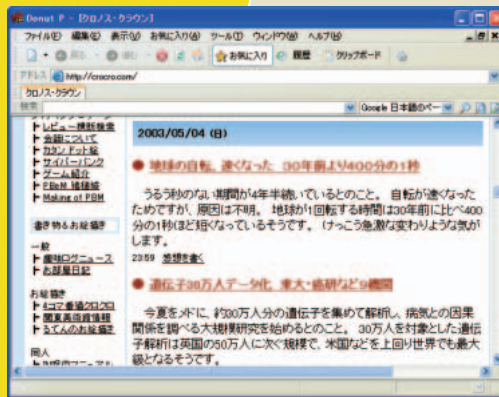
さらに、レベルは高くなるが、CGI用のデータのアップロードを行いたい場合にも対応している。追加アップロード設定のタブをクリックして、ログのデータや、RSSファイルのアップロードの設定を行おう。ログはテキストの生データ、RSSファイルはXML形式のデータだ。CGIで利用する形式に合わせてファイルのアップロードの設定ができ、複雑なページを作ることもできるのだ。



①「ニュース・コレクター」の画面から「設定」を押して、「ログ表示ページ」を表示してアップロードする先のフォルダーを設定する。



② CGI用のデータをアップする場合は、「追加アップロード」で、アップロード先をCGI用フォルダーに指定。



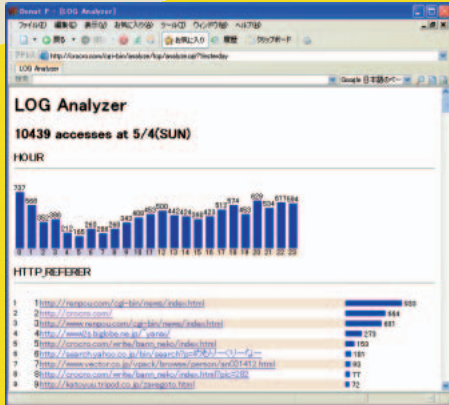
③「ニュース・コレクター」だけでも左のようなサイトが構築できる。「ニュース・コレクター」で常に気になる情報を収集しているだけで、その行為がすでに情報サイト作りになっているというわけだ。もちろん、他人も読む情報なので、コメントなどはわかりやすくつけていくのがベスト。

nkを張った場合に、何人の人がそのリンクをたどってやって来たかを集計するCGIなので、自分と同じ興味を持つサイト管理者を、効率的に探し出すことができるのだ。重要なサイトは、そのまま自分の情報収集の巡回コースに加えていけばよい。必要ならばコンタクトをとって、情報の交換を試みてみるのも有効な手段だ。そ

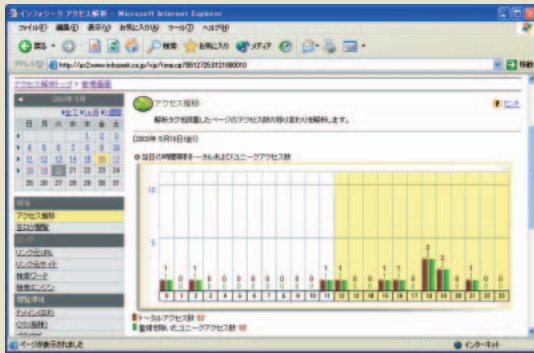
のほかにも「クリック数計測」のCGIも役に立つ。このCGIをサイトに導入すれば、計測結果から自分のサイトを見ている人がどの項目に興味を持っているのかわかり、今旬な情報を把握できる。最高の情報収集者になるには、これらの情報収集サイトの機能を使い、人的な情報交換ネットワークを作ることが究極の方法なのだ。

CGIを使って読者の動向を把握する

アクセス解析で情報提供者を探せ

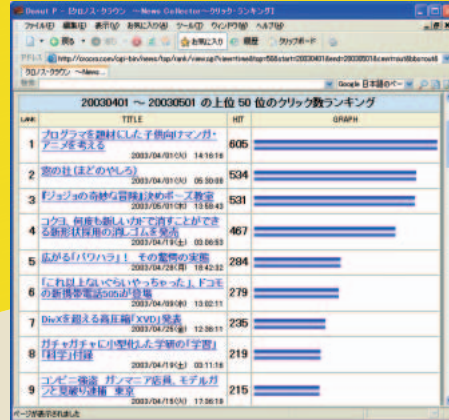


① サイトに「アクセス解析」のCGIを導入し、表示した画面。この状況から自分のサイトと近い内容を扱うサイトを見つけよう



② 「アクセス解析」は、対象ページがリンク元から何回参照されたかを計測するためのCGIだ。CGI RESCUE <http://www.rescue.ne.jp/>などのサイトでCGIを入手する以外にも、インフォシーク アクセス解析 <http://analyze.www.infoseek.co.jp/> (写真左) などのウェブ上の「アクセス解析」サービスを利用する方法もある。

クリック数計測で情報への興味を把握する



③ サイトに「クリック数計測」のCGIを導入し、表示した画面。この計測結果から読者の興味がどういった情報にあるかがわかる。

ウェブ上のツールとローカルツールを組み合わせれば鬼に金棒

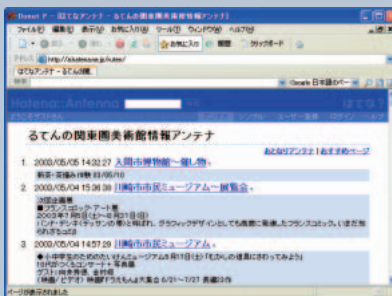
さて、これまで紹介したツールで“集めて整理する能力はそれなりに上がっただろう。ただし、情報収集から整理までを効率的に行うには、ローカルで使うツールと合わせて、ウェブ上のツールを併用するといい。

「はてなアンテナ」を利用すれば、自分がよく見るサイトの更新を手軽にチェックすることができる。「はてなアンテナ」とは、各サイトの更新状況と更新内容を、新しい順に表示してくれるウェブ上のツールだ。

ユーザー登録をすれば、自分の好きなサイトの更新状況をブラウザにリストアップしてくれる。また、個人でニュースなどの専門情報を収集しているサイトをタブブラウザなどで巡回するのも有効な手段だ。特定の種類の情報に対して敏感な人が、特に重要だと思う情報をうまくピックアップしてくれている。

これらウェブ上のツール、サイトを使って自分が探している情報にすぐにアクセスし、これまでで紹介したローカルのツールで、その情報を保

はてなアンテナ



登録などが面倒な場合は、自分が確認したいサイトを多く登録している他人の“アンテナ”を探し、それをブックマークしておいてそのまま利用するという手もあり!
[URL http://a.hatena.ne.jp/](http://a.hatena.ne.jp/)

存、整理していく。ここまでできるようになれば、もはや鍛えるところはなくなったといってもいいだろう。

個人ニュースサイト



ReadMe! JAPANには、多数の個人ニュースサイトが登録されている。娯楽関係だけでなく、科学、経済などの情報に詳しいサイトも多いので、自分のほしい情報を集めているサイトをここから探そう。
[URL http://readmej.com/](http://readmej.com/)



[インターネットマガジン バックナンバーアーカイブ] ご利用上の注意

このPDFファイルは、株式会社インプレスR&D(株式会社インプレスから分割)が1994年～2006年まで発行した月刊誌『インターネットマガジン』の誌面をPDF化し、「インターネットマガジン バックナンバーアーカイブ」として以下のウェブサイト「All-in-One INTERNET magazine 2.0」で公開しているものです。

<http://i.impressRD.jp/bn>

このファイルをご利用いただくにあたり、下記の注意事項を必ずお読みください。

- 記載されている内容(技術解説、URL、団体・企業名、商品名、価格、プレゼント募集、アンケートなど)は発行当時のものです。
- 収録されている内容は著作権法上の保護を受けています。著作権はそれぞれの記事の著作者(執筆者、写真の撮影者、イラストの作成者、編集部など)が保持しています。
- 著作者から許諾が得られなかった著作物は収録されていない場合があります。
- このファイルやその内容を改変したり、商用を目的として再利用することはできません。あくまで個人や企業の非商用利用での閲覧、複製、送信に限られます。
- 収録されている内容を何らかの媒体に引用としてご利用する際は、出典として媒体名および月号、該当ページ番号、発行元(株式会社インプレス R&D)、コピーライトなどの情報をご明記ください。
- オリジナルの雑誌の発行時点では、株式会社インプレス R&D(当時は株式会社インプレス)と著作権者は内容が正確なものであるように最大限に努めましたが、すべての情報が完全に正確であることは保証できません。このファイルの内容に起因する直接のおよび間接的な損害に対して、一切の責任を負いません。お客様個人の責任においてご利用ください。

このファイルに関するお問い合わせ先

株式会社インプレスR&D

All-in-One INTERNET magazine 編集部

im-info@impress.co.jp